Topics Ⅱ 東北

「東北発コンパクトシティ推進研究会」の開催報告

姥浦 道生　東北大学

1.「東北発コンパクトシティ推進研究会」

2018年10月に第12回の「東北発コンパクトシティ推進研究会」(主催事務局：国土交通省東北地方整備局，後援：日本都市計画学会東北支部）が，2日間にわたり開催された。本研究会は，東北の地方都市における「コンパクトシティ」の考え方やその実践にむけた取組み方について検討することを目的としている。具体的には，「コンパクトシティ」という考え方が2000年頃から広まってきたが，東北地方のような地方都市・農村が広がっている地域においては，単純な意味での“コンパクトシティ”を構想することは困難であるのみならず，むしろ問題が多いのではないか，東北地方らしい“コンパクトシティ”とはどのようなものであるかということについて検討し，それを実現していく必要があるのではないか，という問題意識から出発している。主な参加者は東北地方の県市の都市計画担当者であり，東北支部は毎年，この取り組みを支援してきている。

2. 報告・視察

当日はまず，北上市と盛岡市の担当者から，それぞれの市における都市計画と立地適正化計画策定に関する取り組みについて発表があった。北上市においては，「あじさい都市」という分散集約型都市構造を目指すマスタープランのもとで立地適正化計画を策定したこと，その際に「居住誘導区域」ではなく「都市居住区域」という独自の用語を用いたこと，都市機能誘導区域内において病院整備等の基幹事業が予定されていること，等について紹介された。また盛岡市においては，次年度内の計画公表をめざして立地適正化計画が策定されていること，その中でバスセンター整備事業が一つの中核的な事業として想定されていること，等について紹介があった。その後，Park-PFI事業の事例として今後整備予定の木伏緑地と，盛岡駅西口開発の視察を行った（写真1）。

3. 討議

初日の夕方と二日目の午前は，「10万人以上の都市の目指すべきまちづくりと誘導施設，誘導区域の設定について」「10万人以下の都市の・・・」「都市の将来像に応じた交通ネットワークの形成について」という3つのテーマについて，それぞれ班別に討議を行った（写真2）。その中では，

- 市街化区域における人口密度を考慮した誘導区域の設定の必要性
- 地域公共交通網形成計画や総合計画と立地適正化計画との連動の重要性
- 都市計画区域外も含めた全体的計画の必要性
- 郊外部（調整区域）の開発緩和策の見直しの必要性
- 計画策定時の庁内での包括的検討体制構築の重要性
- 誘導区域設定と空き家施策との連動の重要性
- 各種計画策定時の広域調整・連携の重要性
- 公共交通手段のダウンサイジング手法の検討
- 公共交通に対する市民意識の醸成の必要性

等について，熱い議論が交わされた。

自治体の担当者の方々も，立適と網形成計画という2つの計画策定に関する悩みが切実であった分，非常に積極的に問題提起や発言がなされた。単なる“コンパクト”ではない，その自治体のサステナビリティを向上させるための立地適正化計画の策定の必要性に関する自治体担当者の理解増進に寄与したのではないかと思われる。

今後も，学会も積極的に他団体と協働して広く情報発信を行っていくことが求められる。

写真1：盛岡駅西口開発の視察の様子

写真2：班別討議の様子